

視察報告書

令和5年10月12日(木)・13日(金)

青森県八戸市公会堂・公会堂文化ホール

提出者：永田 起也

第85回 全国都市問題会議

「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」

【第1日目 10月12日(木)】

●基調講演

「アート役割って何だろう？」

東京藝術大学長、アーティスト 日比野 克彦 氏

アートプロジェクト事例

- ・岐阜県長良川の冬の風物詩「こよみのよぶね」1000年先まで続くプロジェクト
- ・朝顔の育成を通じて、人と人、人とコミュニティ「明後日朝顔プロジェクト」
- ・熊本市現代美術館「ART LAB MARKET(アートルボマーケット)」2016年館長に就任。
アートとサッカーを融合させたプロジェクトの実施など、美術館内にとどまらず、中心商店街や各地をフィールドとした展覧会など数々事業を行った。
など、地域と地域をつなぐ場面におけるアートの役割を発掘してきた。健康やウェルビーイングを地域や社会ぐるみで高めようとする文化・アートの領域で開催することに関心を持った。

●主報告

「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

青森県八戸市長 熊谷 雄一 氏

市民の多様で特色ある自主的な文化活動を「多文化」と定義し、振興策を検討した。文化政策の新たな展開として地域資源の再評価や地域課題にアートの力を活用してアートプロジェクトのビジョンとして示された。

2011年に開館した八戸ポータルミュージアム「はっち」を交流と想像の拠点地域（フィールドワーク）の場としている。文化・スポーツが多くの人を惹きつけてやまないのは「生きる歓び」を持つ。

●一般報告

「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる」

文化事業ディレクター、演出家 吉川 由美 氏

公共の美術館という場を通じて地域の営みを知ること、またその地域に住む人たちの文化と風景の固有性。文化を生み出し、地域らしさを形作っている「人そのもの」に徹底的に光をあてる。「デコトラヨイサー」トラック野郎たちの美学と伝統的な八戸の祭の造形美など、新たな発見だけでなく、心意気が八戸の水産業を支えているという気づきなど。市民とアーティストたちとの協働が、視座と感動、新たな関心を生み出した。地域資源を活かす拠点とネットワークをつくることが大切だと感じた。

●一般報告

「標高差 1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出

長野県東御市長 花岡 利夫 氏

自然と歴史が共存する町だが、平地がすくないことはまちの欠点として捉えられていた。地方創生で大切なのは、まちの欠点を小さくして長所を伸ばすこと。標高差のあるまちの特徴を活かしたのがワイン醸造と高地トレーニングであった。その高地トレーニングエリアを中心とした「スポーツが生み出す都市の魅力と発展」を促進。

建設費やランニングコストは企業版ふるさと納税をはじめとする寄付を財源にすることで民や議会から同意を得て施設整備をスタートした。完成した「GMO アスリートパーク湯の丸」、日本一の高所にある全天候型 400m トラックやトレーニング用屋内プールに加え、宿泊所や室内トレーニング場、食堂など整備しアスリートたちの後押しをしている。欠点を個性に。発想の転換から新しい発見を得て、大きな推進力をもっている市長の行動力に感銘を受けた。

●一般報告

「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用

株式会社鹿島アントラーズ F C 取締役副社長 鈴木 秀樹 氏

国がスポーツ立国戦略で占める「する・見る・支える」に加えて「稼ぐ」ができるのがプロスポーツであり、経済効果・人口動態・心象風景・QOL に大きな影響を与えることができること、またクラブが持つ資産を地域に還元し、持続化可能な地域づくりに貢献するという役割を示されていた。現在は、市民の健康づくりへの還元としてフィットネス事業、児童・生徒への還元としてプログラミング教室、食育キャラバン、キャリアデザイン教室、

教育向け講話、スタジアムやクラブハウスを活用した学校外活動への協力など、幅広く取り組まれている。文化スポーツ・芸術など一部の人に対応することと考えがちだが、まちづくりの力は、そういった分野を様々な形に変えて進めることの大切さを感じた。

【第2日目 10月13日(金)】

●パネルディスカッション

テーマ「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」

コーディネータ 東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林 真理 氏

パネリスト

・合同会社 imajimu	代表取締役	今川 和佳子 氏
・拓殖大学商学部教授		松橋 崇史 氏
・静岡県沼津市長		頼重 秀一 氏
・京都府綾部市長		山崎 善也 氏

文化芸術・スポーツは、生きがいや潤いのある人生に繋がる。地元住民自身がそれぞれの地域に誇りを持たない限りは、定住や交流人口の促進はおぼつかない。その土地を訪ねてきた人に対して自信を持っていて自分のまちのすばらしさを語ることから地方創生がはじまる。知立市は平成14年から生涯学習宣言をし、文化芸能・芸術には、以前より促進してきているが、まさに今回のテーマで、より創造を掘り起こしてまちづくりを活かした活動をすべきと感銘を受けた。